

(意見陳述1)

ここに書かれております交流型集落道、これは私といたしましては非常にありがたい言葉で、まず冒頭から、集落という部分であれば、上神谷(にわだに)全体を言っていることだと、私たちの集落も「集落道」という名前で呼んでいただけてもうれしいと思っております。

私は、上神谷というところで、10町ございますが、それを束ねております連合町会の会長でございます。きょうの陳述はその10町全体の総意であるということをごまづ皆様方にご理解賜りたいと思うわけでございます。

それからもう1つは、上神谷というところは、昔から古うございまして、大阪府のいろんな支援をいただいております文化財も多々ございます。そういうふうなことからいきまして、やはりこういうものを一つにまとめあげた、集落道を通して、休日になりますと、多くの方々が来られますので、そういうふうなこともひとつの道しるべということの中で、ひとつの線を結びたいというのがかねがねの念願でございました。

まず、いわゆる交流型集落道の完成によりまして、農業に携わる我々は、農作物の生産・加工・流通を一体化された都市型農業のさらなる展開により農業収入の拡大と雇用創出が図れるだろうと思っております。

もう少し具体的に申し上げますならば、昭和40年にニュータウンの建設が始まりました。現在できております泉北ニュータウンでございますが、ちょうど隣り合わせになっております。そこへ16万から20万の方が移ってこられたということになりまして、一遍に地価の高騰をみたわけでございます。そういうことからいたしまして、我々の頭の中には、土地というものは永久に下がらないものだと、これは結構なことだと、土地さえ持っておればというのがまず私たちの心の中に植えついてしまった。土地は下がらない、またそういうものは永久に土地の高騰に守られて、我々は裕福になれるというような甘っちょろい考えを持つに至ったということでございます。

そういたしまして、しかる後にこういうふうな下落が来るということは夢にも思っておらず、安閑としておったのが私たちの住民感情でございました。ところが、昭和63年になりまして、そういうふうな土地の陰り、また会社のリストラが始まりまして、これはいけないのではないかと、我々自体がどうしたらいいかと考えました。ちょうど、その景気のいいときに、農業を一体化させるということで、まず(農業生産基盤の)改良が始まって、そのときにはまだ皆はうかれておりました。土地の評価が、坪何ぼすると、結構なことだと、こういうふうになっておりましたが、この陰りを見たときに、これではだめだと、どうしたものかと、額を寄せて相談いたしました。幸い、私たちの近くにまちがあるじゃな

いか、いわゆる交流というものを考えて、その人たちのニーズに合ったことをやらなければ、これからはやっていけないんじゃないかということから、私たちの考えがだんだんとそういうふうなことに……。まちの方々に合う野菜づくり、それも安く売る、安心のできるものをということを目指そうということで、今から 15 年前にそういうふうなことができ上がってきたわけでございます。

それから以後、いわゆる上神谷の鉢ヶ峯の中に、行ってみられた方もございましょうが、コスモス館という（直売）施設をつくりました。私の地元でございますが、そこでは皆さんのニーズに合うような、いわゆる安価で安心して食していただけるというものをモットーにいたしまして、つくっていく。昔は、私らが市場へ行っているときには、案外、下に悪いものを隠して、上にいいものを載せて、それで買ってもらっていた時代もございしますが、そんなことをしたときには一遍にわかってしまうのだから、その点（背信行為）については制裁するぞということで、以前に 1 件ございましたけれども、以後そういうことは起こっておりません。

そういうことの大きなことが、いわゆる牛肉（の偽装問題）に始まり、また表示とちがうものを売っておると。これが社会的には大きな問題になった。その点につきましては、こういうふうなことをおろそかにしたから、皆さんの心が離れてきたと。そこで、まちの人と一体になってやらなきゃならんと考えて、農業に勤しんでおる次第でございます。

今では、かなり皆さんの理解を得て、ニュータウンの方たちも含めて、堺市内も含めて、年間 10 万人が野菜を買いに来てもらえるようなところまで発展いたしました。そういうことから、今度は、小学校 3 年生になりますと、大体知識が付いてくるものですから、それに対する「農」というものを教えるような傾向がございしますので、3 年生が見学に来てくれます。それがこの春から今までにもう既に 3,000 人を超えております。バスに乗って見学に来てくれます。それから「ふるさとウォーク」と申しまして、イモ掘りとかの体験農業もやっております。

幼稚園の生徒が 2,000 人来てくれて、見学し、体験の中で、田植えもやってくれます。イモ掘りやイモの差し替えなどもやっておりますので、非常にありがたいことでございます。

皆さんのニーズに応えるべく努力していく陰には、そういうふうな報いが来ると思っておりますので、その点につきましては、私はまちの人たちと交流を深め、またそういうふうな人たちの気持ちの上にも立って、お互いに共存をしていこうと、こういう精神は続けるつもりであります。

それと、各町も皆それぞれ特産物があって、位置は分散しておりますが、別所のミカン、それからコメ、そういうふうなものを含んで一体化した線を結んでもらえるならば、そこ

に皆さんの思っておるネットワークというものが開けてくるんじゃないか。こういうふう
に思いますので、その点につきましてはご理解を賜りまして、新鮮な野菜、安価であるこ
と、何よりも安心できることを私はモットーにしておりますので、ご理解を賜りたいと思
います。

それがひとつのキーワードでございますので、その点につきましては、今日こんな機会
を与えていただきまして、非常にありがたいと思っております。ひとつよろしくお願い申
し上げますとともに、生産地をネットワークで結んで、上神谷の遺産文化を市民に広く知
ってもらうために、ウォーキングロードというような中で、皆さんも歩いていきやすいよ
うな道ということを考えるならば、円は大方結ばれておりますが、(残り)1.4km さえ結ん
でいただければ、円になります。我々は、皆さんと一緒に里山を守っていきたいと思うわ
けでございますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。ありがとうございました。

(委員からの質問)

先ほどご発言の中で、地元の町内会の総意で来られたということでしたが、その町内会
の総意というのをどういう形で今日ここにお持ちになられたのか、少し立ち入ったことが
もしれませんが、皆さん方のご意見の内容を少しご紹介いただけるとありがたい、という
のが1点。

それからもう1つは、陳述者の方ご自身が農業を営んでおられるということでしたが、
農業者の方々のご希望も随分強いと伺ってはいるのですが、先ほどの交流型農業というよ
うなこともあって、そちらの方も確かに人数は多いのかなという感じもするんですが、も
う一方では、畜産団地のような、どちらかという、こういう都市との相互交流とちょっ
と外れるような部分もあって、このあたり、農業者の方のご要望がどうなのか、もしご存
じの範囲があればお教えいただきたい、というのが2点目です。

(意見陳述者)

私どもの地域的に申しましたら、大体、資料1(府民からの意見公募の結果)を今日初
めて見せていただきまして、そこに(堺南部丘陵地区の)面積も出てございます。それで
1,560haということは、よく調べはったが、私もその数字で合っていると思います。これは
堺全土の12分の1を持っております。そのうちの農業におきましては350ha、約100万
坪ですが、その中で、農業に専従し、またそういうふうなことに携わっておるものは531
軒ございます。

そういう意味から、この前に、この集落道をつけなきゃならんというのは、もう連合
会長3代にわたる念願でございまして、その中で、果たしてつけることが必要なのかどう
かということで、今もう一度考えておられると思いますが、初めは、ああ、つけてもらえ

る、こらうれしいということでしたけれども、政府の施策か、また府の施策か、一遍、今までの計画と違って（見直して）これが是か非かと、果たしてそれが本当に必要なのかということで、この諮問機関ができたんだろうと思います。もうちょっとのところで、いろいろな交流ができるんじゃないかと。歩いてもらうのも楽に歩けると考えております。

これからは・・余談話になりますけれども、上神谷の里山は非常に松林のきれいな丘でした。ところが、ご存じのように、マツクイムシに侵されて、現在では松は一本もございません。その後、ナラ、カエデというものが育っておりますけれども、これも最近の新聞では、それをまた食う虫があらわれてきた。そういうふうなことになるれば、後で残されたところは、はげ山かそんなことになります。その点につきましては、そういうふうなものを、きちとしたこと（維持管理）をして、いわば里山を守っていこうという趣旨でアンケートをとりましたところが、90何%というところまで農家の同意をいただきましたので、私は意を強くしたわけでございます。

（委員からの質問）

今のご質問の趣旨は、農家ではなくて、町内会としてですね。それともう1つは、畜産団地とのかかわりのご質問でしたが。

（意見陳述者）

畜産といたしましては、まず地形的に、私の本当のつけてほしい道のちょうど東南部にあるものですから、特に百姓、いわゆる農業とすれば一体化したものですから、酪農も農業ですから、それについては、いわば流通のいいように、また我々もそういうふうなことでしてあげるのが道じゃないかというふうにも思いますし、その点につきましてはご理解を賜りたいと思います。

（委員からの質問）

あと、町内会ではどんな様子だったんですか。農家だけではないと思いますが。いろいろなご意見があったかしれないと思ひまして。

（意見陳述者）

交流型集落道をつけていただくということにつきましては、（まちと農村が）一体化するということと、もう1つは、交通の渋滞が防げるということも併せてあったわけでございます。今現在は「ハーベストの丘」のところで終わっておりますけれども、それを回して（延伸して）いただければいいのではないかと、というのが強い意見でございました。